

代々木進学ゼミナール 教育ニュース

YOYOGI SHINGAKU SEMINAR EDUCATION NEWS

vol. 63

<http://yoshin-zemi.com>



東京外国语大学学長 林佳世子

林佳世子プロフィール

1958年生まれ。1981年お茶の水女子大学文教育学部史学科卒業。1988年東京大学東洋文化研究所助手。1993年より東京外国语大学外国语学部勤務。2013年 東京外国语大学副学長。2019年 東京外国语大学学長。専門はオスマン朝史、トルコ研究。著書に『オスマン帝国の時代』(山川出版社)、『オスマン帝国500年の平和と興亡の世界史』(講談社学術文庫)、編著に『イスラーム・書物の歴史』(名古屋大学出版会)、「記録と表象—史料が語るイスラーム世界』(東京大学出版会)など。



多様性」と「共生」の
東京外国语大学

嶋田 本日は、お忙しい中、お時間がいたりましてありがとうございます。東京外国语大学には亀山前々学長、立石前学長にも大変お世話になりました。今後、ますます異国の人と交流する機会は増えていくと思います。東京外国语大学ホームページの林学長のメッセージの中に、「多様性」「共生」という言葉が何度も出てきます。

林 はい。亀山先生、立石先生の時代からお付き合いがあつて、今後も、いろいろなことでご協力できればと思います。ありがとうございました。

で説明いただきました多様性についてですが、世界は多様性に富んでいます。その多様なものがバラバラにあれば、それはある種それで、それぞ単独で生きていけるわけですが、その多様なたつものが、今の時代は混ざり合っているからこそ、いるからこそ、

共生が問題になってきており、だと私は感じております。誤解を恐れず言うならば、現在の日本は、外国人のおかげでさまざまことが継続できていると評価できるような、そういう時代になってきたのですが、なぜでしょうか。もともと世界は多様なものが点在していたわけですが、その存在のあり方が、違つてきていたりするのが今の立場に立つて日本だけが正しいとか、私達の見方がひとつ多様な見方や立場を尊重して、共存の道を探るといふことが求められていると思します。

本学はその意味では、多様性を実感できる大学です。多様性・共生の重要性を感じることが、豊かな感受性を育むことができる環境があります。違う考え方を持つた人がいるということを、当然のこととして考え

ます。本学は世界の縮図です。食堂に行けば隣には、様々な国の人があれぞの言語で会話をしているのが日常の光景です。大学全体が世界であるところを経験してみたい、世界の縮図を歩いてみたいと考える学生にはこれ以上の環環境境の大学はないと思います。国籍は関係なく、一緒に新しい社会を作りたいと考える学生にぜひ来てほしい。

さうに言えば、それは人間への興味ということだと思います。大學で学べるのは、語学やその歴史的背景などですが、言葉を話すのは人なのです。

林 素晴らしい企画ですね。もちろん留学生の教育に関わりたいと、いうことで法務省認可の日本語教育機関を設立しました。

林 素晴らしい企画ですね。もちろん、今後も本学の学生が協力できることがあるたうご協力は惜しません。

渡部 子どもの教育で悩んだり、喜んだりして過ごしております。林先生がお考えになる法を教えていただけませんで

林 まだ何かありますか?

渡部 まだあります。林先生がお考えになる法を教えていただけませんで

林 まだあります。林



結局のところ 人間への興味 ということだと思います。

YOYOGI SHINGAKU SEMINAR EDUCATION NEWS



鮎瀬 東京外国语大学の国際日本学部と他大学の同じような学部の違いを教えていただけますでしょうか?

林 本学は外国語学部が1つだけの時代が長く続きました。

戦後の新制大学として今までからずっとです。しかし一方で、

東京外国语大学というのは外国语だけを勉強するところではないといふことを一生懸命訴えて

もきました。言語だけではなく、その地域と他の地域との関係、

歴史、経済等をトータルに学ぶことができます。しかし大学名

・学部名だけでは、そのメッセージが伝わりません。何が勉強で

きるのかを明確にするために

本学は外國語学部が1つだけの時代が長く続きました。

東京外国语大学としては外国语だけを勉強するところではないといふことを一生懸命訴えて

もきました。言語だけではなく、その地域と他の地域との関係、

歴史、経済等をトータルに学ぶ

ことができます。しかし大学名

・学部名だけでは、そのメッセージが伝わりません。何が勉強で

きるのかを明確にするために

世界の言語文化を学ぶ言語文化学部、国際社会について学ぶ国際社会学部の2つの学部をまず作りました。それに加えてそれぞれの一部を取り出して、国際日本学部を作りました。言語文化と国際社会というは、世界の言語文化会というは、日本については、留学生と日本人が一緒に、日本の言語も文化も国際的な社会関係も包括的に学ぼうということで、国際社会の仕組みを学ぶというところですが、日本については、留学生と日本人が一緒に、日本の

言語も文化も国際的な社会関係も包括的に学ぼうということで、国際社会の仕組みを学ぶというこ

とになります。

キャリア形成 博士号取得後の課題



博士号を取りつ一般企業で勤められるような教育をしろといふことを強く言われております。もちろんそういう側面も必要だと思います。しかし、やはり研究をやりたいと思う人たちが、より多く研究で食べていただけるよう条件整備も必要なのではないかと私は思います。

と思います。しかし、やはり研究をやりたいと思う人たちが、より多く研究で食べていただけるよう条件整備も必要なのではないかと私は思います。

海外に行くことを指して言わないと話が混亂します。次に、留学のメリットなですが、やはり全身でその地域を体験する、感じることだと思つのですね。例えばコロナ禍であっても、みんなどう生きているか、社会がどうなっているかを体験して感じる

こと、それがやはりその地域を知ることになると思うのです。逆に日本に来てくださる方々もコロナ禍でも来てくれるには、それを夢を抱いてくれていて、それと違うのです。日本語を勉強することが、自分の人生の中で、次に何かに繋がると思って選んできた

ただいているわけですから、そういう人たちに、日本社会の良いところも悪いところも含めて、トータルに知つてもらえる機会を提供したいと考えています。そういう意味で、やはりリアルな留学が復活しないと、世界を本当の意味で理解するということになつていかないのではないかと強く思ひます。

これは余談ですが、本学の卒業生は、どこか独立性が強く、ある地域で相手のルールを理解し、暮らすうちに、自分で考える習慣が身につくのだと、思います。自分で考えた人たちで、あまりぶれたりしないで一直線に目標や夢に向かってほしいと願います。また

リアルな留学の醍醐味や魅力



二つに応えるため、オンライン留学という制度があります。しかし、それを留学と呼べるかどうかは疑問です。やはり留学はリアルに海外に行くことを指して言わないと話が混亂します。次に、留学のメリットなですが、やはり全身でその地域を体験する、感じることだと思つのですね。

例えば、ロシア語を自動翻訳機によって母国語で全て理解できるとする、世界の人は、全て自分の世界の中に閉じこもってしまうわけですよね。そんな世界が快適だとはとても

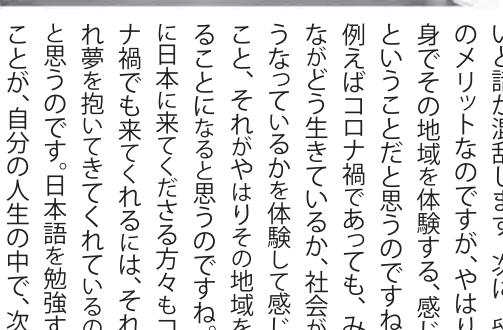
思えないのです。自動翻訳機で理解するといふのは、やはりわがままな理解になつてしまつと思うのです。お買い物する時に、いくつですかみたいな話は翻訳機で十分だと思いま

す。しかし、真に相手を理解するということとは違うと思うので、相手の懐に入つて、相手のルールでものを考える力と、どうの通じて育まれていくものではないかと思うのです。

そういふ人たちを日本が育続けるということは日本にとっても重要ですし、日本語を話す外国人の人々が世界中に存在していることでも重要だと思いま

外国語教育の 重要性

リアルな留学の 醍醐味や魅力



渡部 東京外国语大学には、社会人・一般の人でも学べる環境は、全て自分の世界の中に閉じこもってしまうわけですね。そこまでしまつた私でも学

は、全て自分の世界の中に閉じこもつた私でも学ぶことができるのでしょうか?林はい。社会人向けといつこもつてしまつわけですよね。そこまでしまつた私でも学ぶことができるのでしょうか?

林はい。社会人向けといつこもつてしまつわけですね。そこまでしまつた私でも学ぶことができるのでしょうか?林はい。社会人向けといつこもつてしまつわけですね。そこまでしまつた私でも学ぶことができるのでしょうか?

渡部 東京外国语大学には、社会人・一般の人でも学べる環境は、全て自分の世界の中に閉じこもつた私でも学ぶことができるのでしょうか?林はい。社会人向けといつこもつてしまつわけですね。そこまでしまつた私でも学ぶことができるのでしょうか?

林はい。社会人向けといつこもつてしまつわけですね。そこまでしまつた私でも学ぶことができるのでしょうか?林はい。社会人向けといつこもつてしまつわけですね。そこまでしまつた私でも学ぶことができるのでしょうか?

林はい。社会人向けといつこもつてしまつわけですね。そこまでしまつた私でも学ぶ

野口 オンラインでの異文化交流ではなく、リアルな留学の醍醐味や魅力についてお話を聞かせてください。

林 口ナサということもありましたが、日本人の留学生数は伸び悩んでいます。いろいろな状況下で、日本の子供たちが外国人に行きたがらないとか、日本が一番居心地良いとかあることは、うな世界観というのがあるのかかもしれません。そうではないことを実感することが本当に大事だと思います。この先、日本が日本として生きしていくには日本

た。嶋田 私は外国语大学の果たすべき役割的重要性は、今後ますます大きくなると感じて、現場の教育の方を考えております。博士号を取った後

ます(笑)。何より博士課程をもつと充実させていかなければならぬという問題意識はあります。にもかかわらずそれが思うほど進んでおりません。やはり出口の問題に尽きております。博士号を取った後

本として生きしていくには日本だけ生きていいくことは難しいというのは誰もが承知していることではないかと思います。そういう人

のですが、やはり社会全体でそういう狭い考え方にならないようにしていかないと感じます。それはひたすら我々大人の責任ですね(笑)。本学では、「コロナ禍でも学生たちの留学したい」という定

定でできました。しかし、今は難

定であります。しかし、今は難

研究ポストというのが普通に想

一部を取り出して、国際日本学部を作りました。言語文化と国際社

会というは、世界の言語文化

会というの

と日本については、留学生と日本人が一緒に、日本の

言語も文化も国際的な社会関係も包括的に学ぼうということで、国際社会の仕組みを学ぶといふこと

と日本については、留学生と日本人が一緒に、日本の

言語も文化も国際的な社会関係も包括的に学ぼうといふこと

と日本については、留学生と日本人が一緒に、日本の